

第2回 U-19 アメリカンフットボール世界選手権大会

報告書

2012年7月

社団法人 日本アメリカンフットボール協会

第2回 U-19 アメリカンフットボール世界選手権大会2012(報告)

国際アメリカンフットボール連盟(IFAF)が主催する第2回U-19世界選手権は、2012年6月30日～7月7日、アメリカ合衆国テキサス州オースティン市で開催されました。

アジア代表として出場したU-19 日本代表チームは、第1試合のフランス代表(ヨーロッパ大陸2位)を27対6で破って準決勝に進出しましたが、前大会2位のカナダ代表に24対33で敗れ念願の決勝進出は果たせませんでした。3位決定戦ではヨーロッパ大陸1位のオーストリア代表を7対0で破って、前回に引き続き銅メダルを獲得しました。なお、決勝戦では第1回大会2位のカナダ代表がアメリカ代表を破り初の栄冠を勝ち取りました。

【U-19 日本代表チームの試合結果】

第一試合(6月30日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
U-19 日本代表	17	7	3	0	27
U-19 フランス代表	0	0	6	0	6

準決勝(7月4日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
U-19 日本代表	14	0	3	7	24
U-19 カナダ代表	14	9	0	10	33

三位決定戦(7月7日)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
U-19 日本代表	0	0	0	7	7
U-19 オーストリア代表	0	0	0	0	0

全体結果

- 【1位】 カナダ (アメリカ大陸／第1代表)
- 【2位】 アメリカ (前回大会王者／開催国)
- 【3位】 日本 (アジア)
- 【4位】 オーストリア (ヨーロッパ代表／第1代表)
- 【5位】 アメリカンサモア (オセアニア)
- 【6位】 フランス (ヨーロッパ大陸／第2代表)
- 【7位】 スウェーデン (ヨーロッパ大陸／第3代表)
- 【8位】 パナマ (アメリカ大陸／第2代表)



【第一試合】

—U-19 日本代表、初戦のフランス戦に 27 対 6 で勝利！準決勝進出—

現地時間6月30日(土)※日本時間7月1日(日)、米国テキサス州オースティン市で開催されている『第2回 IFAF U-19 世界選手権大会 2012』のトーナメント1回戦が行われ、パナマ対オーストリア戦に続く1回戦2試合目に登場した19歳以下日本代表は、ヨーロッパ大陸第2代表のフランスと対戦し、27対6のスコアで勝利。7月4日(水)に行われる準決勝進出を決めました。

なお、今大会の主催 IFAF が選出したこの試合の日本代表ゲーム MVP には、インターチェプト・リターン TD やファンブルリカバーなどビッグプレイを連発した LB コグラン ケビン(早稲田大学1年)が受賞しました。

日本代表は次戦、7月4日(水)に行われる準決勝でカナダ対スウェーデン戦の勝者と戦うことになります。そして、さらに勝ち上がると、大会最終日の7月7日(土)、アメリカ、パナマ、オーストリア、アメリカンサモアのブロックを勝ち上がってきた勝者と世界一の座をかけて対戦することになります。

		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア	17	7	3	0	---	27
U-19 フランス代表	ヨーロッパ第2	0	0	6	0	---	6

ゲームサマリー

日本代表が前半から主導権を握った。第1Q 残り6分、敵陣33ヤードから始まったドライブは、QB 岸村 恭吾(関西大学1年)のパス、チーム最年少のRB 高田 ジェームス(早大学院高校2年)のランなどでゴール前5ヤードへ前進。先制TDは奪えなかったものの、同残り3分15秒に有輪 七海(日本大学1年)が23ヤードFGを成功。日本代表が3点を先制する。

さらに日本代表はその直後、第1Q 残り3分の場面でLB コグラン ケビン(早稲田大学1年)がビッグプレイ。LB コグランは、フランス代表のファーストプレイでインターチェプトすると、そのままゴールラインまで持ち込む27ヤード・リターン TD。日本代表は、リードを10点に広げる。

勢いの止まらない日本代表は、LB コグランのリターン TD からおよそ1分後の第1Q 残り2分4秒、LB コグランが敵陣20ヤードでファンブルリカバー。好ポジションで攻撃権を得た日本代表は、RB 高田の13ヤードランなどでゴール前2ヤードまで進むと、同残り5秒、RB 高田がTDラン。さらには第2Q 残り1分37秒、主将を務めるRB 鷺野 聰(関西学院大学2年)も、第4ダウン・ギャンブルから15ヤードTDランを決め、日本代表が前半を24対0で折り返す。

前半の勢いを持続したかった日本代表だったが、後半は失速。奪った得点は、第3Q 残り5分13秒に決めたK 有輪の38ヤードフィールドゴールのみ。ファーストダウンも前半の8回に対して、わずか1回だった。27点を追うフランス代表は、第3Q 残り1分50秒、第3ダウン10ヤードのシチュエーションで、RB ニコラス・カンダールが26ヤードTDラン。しかし、エクストラポイントは失敗に終わり、6点を返すのがやっとだった。

■ 主なスタッツ

得点経過					
1Q					
日本	FG	03:15	K 有輪 七海	23 ヤード	FG
日本	TD	02:04	LB コグラン ケビン	27 ヤード	・インターベプトリターン TD(キック成功)
日本	TD	00:05	RB 高田 ジェームス	2 ヤード	TD ラン(キック成功)
2Q					
日本	TD	01:37	RB 鷺野 聰	15 ヤード	TD ラン(キック成功)
3Q					
日本	FG	05:13	K 有輪 七海	38 ヤード	FG
フランス	TD	01:50	RB ニコラス・カンダール	26 ヤード	TD ラン(キック失敗)

日本	チーム成績	フランス
205	オフェンス総獲得ヤード数	119
67	パス総獲得ヤード数	16
138	ラン総獲得ヤード数	103
9	ファーストダウン回数	5
10／63	ペナルティ回数／喪失ヤード数	6／35
20:16	ボール支配時間	27:44

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベプト	被サック
QB 岸村 恭吾	4／11	65	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
QB 佐伯 龍之介	8	56	0	7.0	17
RB 高田 ジェームス	6	32	1	5.3	13
RB 鷺野 聰	5	15	1	3.0	15
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 木下 豪大	1	40	0	40.0	40
RB 鷺野 聰	1	13	0	13.0	13
TE 村橋 洋祐	1	12	0	12.0	12
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターベプト	
DB 下水流 裕太	6.0	0	1.0	0	
DL 宮田 直人	4.5	2.0	2.5	0	
LB 林 直輝	4.0	0	0	0	
DB 三津谷 郁磨	3.0	0	0	0	

■ フランス戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

U-19 日本代表 山㟢 隆夫 監督（大阪産業大学附属高等学校監督）

「今日はディフェンス陣が良く頑張ったが、オフェンスではイージーなミスが多かった。幸いにも次の試合まで3日間あるので、その期間で(イージーミスした部分を)修正していきたい。おそらく相手はカナダになると思うが、選手たちには精いっぱい全力で戦ってほしい。」

U-19 日本代表 LB コグラン ケビン（早稲田大学1年）

「インターセプトについてはコーチの指示通りにプレイしたら、ちょうど自分のところにパスが飛んできたのでラッキーだったと思う。あとはエンドゾーンに突っ込むだけだという気持ちで走りました。」

「チームとして今日の試合ではタックルミスがすごく多く目立っていたので、次の試合ではそれを修正して、最初から最後まで地に足をつけたしっかりとタックルをすれば、大きな相手だろうと次も良い試合が出来ると思う。」

「今日はゲームMVPに選ばれたが、選ばれて嬉しいという気持ちもあるが、自分としては他の選手の方が良いプレイをしていたと思う。なので、次の試合はもっと自分でも納得のいくような良いプレイをして、またMVPに選ばれるような活躍をしたいと思う。」

— ご案内 —

◆U-19 日本代表チーム報道用写真

日本アメリカンフットボール協会では、『第2回 U-19 世界選手権大会 2012』に参戦中のU-19 日本代表チームの試合や、現地テキサス州オースティン市での活動の様子の写真を随時ご用意しております。報道用写真として貸し出しをご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

また、現地レポートや写真は、NFL 日本公式サイト内特設ページ(www.nfljapan.com/u19wc2012/)でも随時公開中です。こちらも併せてご活用ください。

◆大会全12試合 LIVE 動画配信

U-19 日本代表の試合を含めた今大会全12試合の模様は、大会を主管するUSA FootballのYouTube



フランス戦
#42
ケビン・コグラン選手



#1
ジェームズ高田選手



#7
佐伯龍之介選手

【準決勝】

—U-19 日本代表、2 大会連続でカナダの前に決勝進出を阻まれる—

現地時間 7 月 4 日(水)※日本時間 5 日(木)、米国テキサス州オースティン市に於いて開催されている『第 2 回 IFAF U-19 世界選手権大会 2012』の準決勝 2 試合が行われました。1 回戦でフランスを 27 対 6 と勝利した U-19 日本代表は、準決勝第 1 試合に登場し、3 年前の前回大会からの因縁の相手、カナダと対戦しました。

両チーム計 8 つのインターフェントが乱れ飛んだこの試合は、試合序盤の第 1Q、日本はオフェンスとディフェンスで 1 つずつ、カナダはスペシャルチームとオフェンスで 1 つずつ TD を奪い、スコアも 14 対 14 と互角の展開。しかし、第 2Q に入ると、日本は 3 回の攻撃シリーズで連続してインターフェントを喫し、そのうち 2 回を得点に結びつけられ、9 点ビハインドで前半を終えました。

後半に入り、1 回戦のフランス戦から好調を維持するディフェンス陣が、2 シリーズ連続でインターフェントを奪うなど奮闘を見せると、それに呼応するかのようにオフェンス陣も一時は 2 点差に詰め寄る意地を見せました。しかし、最後はこれまで堅守を続けてきたディフェンス陣も、第 4Q に入ってカナダが仕掛けてきたランを中心としたパワープレイを防ぎ切れず、終わってみれば 24 対 33 のスコアでカナダの前に屈し、前回大会の雪辱を果たすことはできませんでした。これで日本は 2 大会連続でカナダに準決勝で敗れ、悲願の決勝進出の夢を阻まれました。

なお、今大会の主催 IFAF が選出したこの試合の日本代表ゲーム MVP には、ランでチームトップの 9 回 53 ヤードを獲得した RB 鷺野 聰(関西学院大学 2 年)が受賞しました。

また、準決勝もう 1 試合は、前回大会の覇者アメリカが、ヨーロッパ王者のオーストリア相手に 70 対 7 の圧勝。この結果、7 月 7 日(土)に行われる決勝戦の対戦カードは 2 大会連続でアメリカ対カナダとなりました。カナダに敗れた日本は、決勝戦と同日に行われる 3-4 位決定戦でオーストリアと対戦します。

2009 年に米国オハイオ州キャントンで行われた第 1 回大会では、日本は初戦で欧洲チャンピオンのドイツと対戦し、10 対 7 の僅差で勝利。続くカナダとの準決勝では、戦前の予想を覆す大接戦を演じたものあと一歩及ばず、善戦むなしく 35 対 38 で破れました。しかし、メキシコとの 3 位決定戦では、最後の死力を尽くし 42 対 27 で勝利。アメリカ大陸 3 強の一角を崩し、見事銅メダルを受賞しました。また、日本はチームとしてフェアプレイ賞を受賞し、山崎 隆夫監督も最優秀監督賞を受賞しました。

IAFAF U-19 世界選手権大会の前身にあたる国際交流試合『グローバル・ジュニア・チャンピオンシップ(GJC: Global Junior Championship)※1997~2007 年』を含め、過去この世代の日本代表の成績は GJC の第 5 回大会(2001 年)、第 10 回大会(2006 年)、そして第 1 回 IFAF U-19 世界選手権大会(2009 年)での 3 位が最高。

準決勝第 1 試合 カナダ対日本戦 試合結果

現地時間 7 月 4 日(水)17 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL	
U-19 カナダ代表	アメリカ大陸第 1	14	9	0	10	---	33
U-19 日本代表	アジア	14	0	3	7	---	24

ゲームサマリー

コイントスで日本が勝利してレシーブを選択、カナダのキックオフで試合が始まった。日本はファーストドライブで QB 岸村 恭吾(関西大学 1 年)がインターフェンスを喫するも、ディフェンスがカナダの攻撃をスリーアンドアウトに抑える。ファーストドライブは両チームとも得点を奪えなかつたが、日本は第 1Q 残り 8 分 13 秒、50 ヤード地点からスタートしたセカンドドライブで RB 鷺野 聰(関西学院大学 2 年)の 25 ヤードラン、QB 岸村 恭吾(関西大学 1 年)から WR 西村 有斗(日本大学 1 年)への 19 ヤードパスが通り、ゴール前 6 ヤードへ。そして同残り 6 分 44 秒、ゴール前 3 ヤードで RB 高田 ジェームズ(早大学院高校 2 年)が中央を突き、先制のタッチダウンを奪う。しかし日本は直後のキックオフ、カナダの DB Keegan Arnyek に 98 ヤード・キックオフリターン TD を許してしまう。

あつという間に追いつかれてしまった日本だったが、ディフェンス陣が踏ん張る。同残り 6 分 16 秒からのドライブはパントに抑えられたが、攻撃権が相手に渡った同残り 3 分 18 秒、カナダの自陣 19 ヤードからのドライブで、日本の LB 峯 佑輔(早稲田大学 2 年)がインターフェンス。そのままゴールラインまで持ち込むリターン TD で、日本は 14 対 7 と再びリードを奪う。しかし、またしてもカナダはその直後の攻撃シリーズで、QB Will Finch から WR Doug Corby へ 37 ヤード TD パスがヒットし、わずか 4 プレイで同点に追いつく。

第 2Q に入ると日本の攻撃陣がミスの連発。WR 西村が第 2Q 最初の攻撃シリーズでインターフェンスを喫する。続くカナダの攻撃はディフェンスが踏ん張りパントに抑えるが、次のシリーズで今度は QB 岸村がインターフェンス。カナダはこの好機に、K Louis-Philippe Simoneau が、第 2Q 残り 1 分 1 秒に 35 ヤード FG を成功させる。3 点をリードされた日本は同 44 秒、第 2Q で 3 度目の攻撃シリーズに、QB 岸村が再び痛恨のインターフェンス。カナダの LB Pierre-Luc Caron が 22 ヤードのリターン TD を決めた。その後のコンバージョンは失敗したが、カナダが 23 対 14 で前半を折り返す。

カナダがフィールドを選択したため、後半もレシーブスタートとなった日本。自陣 44 ヤードから始まった後半最初のドライブは、RB 高田のラン、QB 岸村のパスなどで着実に進む。そして 6 分 44 秒、K 有輪 七海(日本大学 1 年)が 31 ヤード FG を決め、後半開始早々に 23 対 17 と点差を詰める。次のカナダのドライブでは、DB 三津谷 郁磨(慶應義塾大学 2 年)が自陣 39 ヤード地点でインターフェンスを決め、攻撃権を奪取。その次の攻撃でファーストダウンを奪えず攻守交代となつたが、今度は自陣 36 ヤード地点で下水流 裕太(日本大学 1 年)が、日本のこの日 3 つ目となるインターフェンスを決める。日本はこのチャンスに敵陣 35 ヤードまで進むも、第 3 ダウン 17 ヤードで QB 岸村が自身この日 4 つ目、チームとしては 5 つ目のインターフェンスをされてしまった。

続くドライブで 37 ヤード FG を決められ、17 対 26 と再び 9 点ビハインドとなった日本。しかし、自陣 30 ヤードから始まったドライブで、途中出場の QB 西澤 凌介(日本大学 1 年)が WR 西村へ 34 ヤードパス、RB 鷺野へも 15 ヤードパスを通すなど、ゴール前 4 ヤードまで進む。そして最後は、QB 岸村が同 6 分 24 秒、エンドゾーンへ駆け込み 24 対 26 とした。

2 点差に詰め寄られたカナダ代表は、ラン攻撃の連続で着実に前進。すると同 3 分 9 秒、QB Hugo Richard がゴール前 1 ヤードから TD ラン。日本は、24 対 33 と三度 9 点差にリードを広げられる。

残り時間が少くなり、すぐに得点を奪いたい日本は、自陣 25 ヤードから始まった残り 3 分 3 秒からのドライブ、QB 岸村から WR 西村への 28 ヤードパスがヒットするなど敵陣 36 ヤードまで前進。しかし、その後の 4 プレイでファーストダウンを奪えず万事休す。日本は前回大会のリベンジを果たすことができず、2 大会連続でカナダ相手に準決勝で敗れた。

日本は最終的に、攻撃のトータルヤードで 330 ヤード対 265 ヤード、ボール所有時間も 29 分 1 秒対 18 分 59 秒でカナダを上回った。しかし、ラン攻撃ではカナダが 30 回中 167 ヤードで 35 回 131 ヤードの日本を上回った。カナダはそのうち、16 回 121 ヤードを勝負所の第 4Q に集中させた。

■ 準決勝第1試合 カナダ対日本戦 主なスタッツ

得点経過		
1Q		
日本	TD	06:44 RB 高田 ジェームズ 3 ヤード TD ラン(キック成功)
カナダ	TD	06:26 DB K. Arnyek 98 ヤード・キックオフリターン TD(キック成功)
日本	TD	03:08 LB 峯 佑輔 23 ヤード・インターミッション TD(キック成功)
カナダ	TD	01:32 QB W. Finch → WR D. Corby 37 ヤード TD パス(キック成功)
2Q		
カナダ	FG	01:01 K L. Simoneau 35 ヤード FG
カナダ	TD	00:44 LB P. Caron 22 ヤード・インターミッション TD(2 ポイント失敗)
3Q		
日本	FG	06:44 K 有輪 七海 31 ヤード FG
4Q		
カナダ	FG	08:51 K L. Simoneau 37 ヤード FG
日本	TD	06:24 QB 岸村 恭吾 4 ヤード TD ラン(キック成功)
カナダ	TD	03:09 QB H. Richard 1 ヤード TD ラン(キック成功)

カナダ	チーム成績	日本
265	オフェンス総獲得ヤード数	330
98	パス総獲得ヤード数	199
167	ラン総獲得ヤード数	131
13	ファーストダウン回数	22
5/23	ペナルティ回数／喪失ヤード数	5/41
18:59	ボール支配時間	29:01

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功/回	獲得ヤード	TD	インターミッション	被サック
QB 岸村 恭吾	10/26	146	0	4	2
QB 西澤 凌介	4/5	53	0	0	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
RB 鷺野 聰	9	52	0	5.8	25
RB 高田 ジェームズ	11	35	1	3.2	10
RB 松田 拓	2	20	0	10.0	14
QB 岸村 恭吾	9	15	1	1.7	11
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 西村 有斗	6	107	0	17.8	34

WR 木下 豪大	2	25	0	12.5	14
WR 恒吉 幸紀	1	17	0	17.0	17
WR 井ノ口 清剛	2	13	0	6.5	9
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターフィル	
DB 宮川 周平	6.5	0	0	0	
DL 藤谷 雄飛	4.0	0	1.0／1 ヤード	0	
DL 小林 貴	4.0	0	0	0	
DB 下水流 裕太	3.5	0	0	1／0 ヤード	
DB 三津谷 郁磨	3.0	0	0	1／0 ヤード	
LB 林 直輝	3.0	0	0.5／1 ヤード		
LB 峰 佑輔	0.5	0	0	1／23 ヤード	

■ 準決勝第1試合 カナダ対日本戦 試合後の U-19 日本代表 監督、選手 コメント

U-19 日本代表 山崎 隆夫 監督（大阪産業大学附属高等学校監督）

「今日の敗因は、今すぐにははつきりとは分からぬが、日本のミス、カナダの強さ、その両方だと思う。具体的に言えば、前半終了間際の2つのインターフィルが痛かった。特に(第2QのWR 西村)有斗のタッチダウンのように見えたレシーブの微妙な判定の直後のプレイでインターフィルを喫し、FG で3点も取れなかつたのが痛かった。」

U-19 日本代表 主将 RB 鷺野 聰（関西学院大学2年）

「オフェンスがチャンスを生かせず得点を重ねることができなかつた。板井コーチが言つてたようにオフェンスは頑張つたけど、勝利までは届かなかつた。取り組みは間違つていなかつたが、足りない部分はあつた。カナダについては、サイズも大きかっつたし、フットボールの技術やスキルは上手かつた。高いボールは取られてしまふし、相手の腕力が強くてボールをかき出されそつになつた。個人の力の差を強く感じた。ゲーム MVP 受賞はおまけのようなもの。全員が頑張つたから受賞できたと思う。自分のプレイとしては、立ち上がりが悪く、ディフェンスのインターフィルターリング TD に助けられた部分もある。自分が MVP というよりも、みんなが頑張つてくれた結果。今日の試合は戻つてこないので気持ちを切り替えて。次の相手を叩きのめして、絶対3位になりたいと思う。」

U-19 日本代表 副将 DB 三津谷 郁磨（慶應義塾大学2年）

「出来れば前半は落ち着いて、ロースコアなゲームに持ち込み、後半粘つていこうというのがチームとしての狙いだったが、両チームともにミスが出てきて、結果として点の取り合いになつてしまつた。特に日本は後半の勝負所で詰めの甘さが出てしまつたという印象。カナダについては、最初は大きなレシーバーを見て厳しいかとも思つたが、いざやってみるとほんとではなかつた。これはディフェンスの皆が感じてることだと思う。インターフィルできたことは良かったが、それ以上に反省の方が大きい。今日は少し不甲斐ない試合をしてしまつたので、全員で気持ちを切り替えて、次の試合ではやってやりたい。」

U-19 日本代表 WR 西村 有斗（日本大学1年）

「第2Qの微妙な判定については、タッチダウンしたと思ったので残念。しかしその後すぐに気持ちの切り替えはできた。次の試合では自分がタッチダウンをして、前回大会の3位決定戦よりも大きな点差で勝ちたい。」



力ナダ戦
#24
三津谷郁磨選手
DB



#4
西村有斗選手
WR

■ 準決勝第2試合 アメリカ対オーストリア戦 試合結果

現地時間 7月4日(水)20時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 アメリカ代表	開催国	7	28	28	7	---
U-19 オーストリア代表	ヨーロッパ第1	7	0	0	0	7

【三位決定戦】

—日本、オーストリアを第 4Q で振り切り、銅メダルを死守—

—決勝戦は大波乱、前回王者アメリカを破ったカナダが初優勝—

現地時間 7 月 7 日(土)※日本時間 8 日(日)、米国テキサス州オースティン市に於いて開催されている『第 2 回 IFAF U-19 世界選手権大会 2012』の大会最終日となるこの日、3-4 位決定戦、決勝戦の 2 試合が行われました。4 日(水)に行われた準決勝で、前回大会の雪辱を果たせずカナダに 24 対 33 のスコアで敗れた日本は、現地時間 17 時※日本時間午前 7 時からの 3-4 位決定戦に登場し、オーストリアと対戦しました。

前回大会でドイツが達成したヨーロッパ勢の最高順位 5 位を上回る、今大会の 4 位以上を確定し、さらに上位を目指すヨーロッパ王者オーストリアとの一戦。試合は、第 1Q から第 4Q の途中まで互いにスコアレスが続く緊迫した我慢の展開が続く中、日本のディフェンス陣が LB 林 直輝(関西大学 2 年)、DL 藤谷 雄飛(関西大学 1 年)、DL 小林 貴(法政大学 2 年)らを中心に終始大奮闘。1 回戦のパナマ戦、準決勝のアメリカ戦で合わせて 76 回 298 ヤードを獲得したオーストリアのランオフェンスを 23 回 37 ヤード(平均 1.6 ヤード)に封じ込めるなど、オーストリアのオフェンス陣にまったく仕事をさせない最高のパフォーマンスを披露。

一方の日本のオフェンス陣はなかなか波に乗れない状態が続いていましたが、第 4Q 開始早々、主将 RB 鷺野 聰(関西学院大学 2 年)の 31 ヤードラン、この日一番のビッグゲインが飛び出し一気にチャンスをつかむと、第 4Q 残り 8 分 42 秒、QB 西澤 凌介がゴール前 1 ヤードからエンドゾーンに飛び込み、ついに均衡を破るタッチダウンを奪取。この 7 点のリードをディフェンス陣が最後まで集中力を切らさず守り切り、7 対 0 の完封でオーストリアを振り切り、前回大会で勝ち取った世界第 3 位の座を死守し、銅メダルを獲得しました。なお、この試合での日本代表のゲーム MVP には、オーストリアのオフェンス陣を完封したディフェンスからタックルでチームトップの 5.0 タックル(ソロ 3)を記録した LB 林 直輝(関西大学 2 年)が選出されました。

また、日本の試合に続いて現地時間 20 時から行われた決勝戦では、2 大会連続でアメリカとカナダが対戦。試合は、準決勝で日本を 24 対 33 で破り決勝に進出したカナダが、前回大会の覇者で開催国のアメリカを相手に大番狂わせを演じ、23 対 17 で勝利。初優勝を飾りました。

この結果、第 2 回 IFAF U-19 世界選手権大会の最終順位が確定し、1 位:カナダ、2 位:アメリカ、3 位:日本、4 位:オーストリア、5 位:アメリカンサモア、6 位:フランス、7 位:スウェーデン、8 位:パナマとなりました。日本は、2 大会連続で世界 3 位の座を勝ち取りました。

決勝戦後に行われた閉会式では、今大会の各賞の発表も行われ、個人賞となる大会ベスト 11 には、U-19 日本代表からもオフェンス部門で OL 島野 堅三(立命館大学 1 年)、ディフェンス部門で DB 下水流 裕太(日本大学 1 年)の 2 選手が選ばれました。

3-4 位決定戦 日本対オーストリア戦 試合結果

現地時間 7 月 7 日(土)17 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア	0	0	0	7	7
U-19 オーストリア代表	ヨーロッパ第 1	0	0	0	0	0

ゲームサマリー

コイントスに勝利した日本がキックオフをレシーブ。自陣 38 ヤードから始まった日本の最初のドライブは、QB 岸村 恭吾(関西大学 1 年)の 16 ヤードランで幕開け。幸先よくファーストダウンを奪った日本だったが、その後の 3 プレイで 1 ヤードも奪えず。結局このシリーズはパントに終わる。その後のオーストリアのファーストシリーズがスリーアンドアウトに終わると、続く日本のドライブもスリーアンドアウト。再びオーストリアがファーストダウンを奪えず、攻撃権を得た日本だったが、QB 岸村が自陣 47 ヤード地点で痛恨のインターセプト。攻撃権を失ってしまう。

自陣 42 ヤード地点から相手の攻撃が始まるピンチだったが、ここで日本は、今大会を通じて好調の守備陣が奮起。自陣 26 ヤードまで攻め込まれるも、第 4 ダウン 6 ヤードで相手のギャンブルをストップした。すると日本は、自陣 21 ヤードから始まった攻撃で、QB 岸村から RB 鷺野 聰(関西学院大学 2 年)への 13 ヤードパスなどで前進。2 度のファーストダウンを奪ったが、結局このドライブもパントに終わってしまう。

しかし、この日も日本の守備陣は好調で、次のカナダの攻撃シリーズを簡単にスリーアンドアウトに封じる。続く第 2Q 残り 10 分 29 秒、自陣 39 ヤードから攻撃が始まった日本は、いきなり QB 岸村がサックされるも、次の第 2 ダウン 16 ヤードで、RB 鷺野が WR 井ノロ 清剛(日本大学 1 年)に 11 ヤードパスをヒット。さらに、QB 岸村が WR 西村 有斗(日本大学 1 年)に 7 ヤードパスを通してファーストダウン獲得。敵陣に侵入したが、ここもパントに抑えられ、日本は得点ならず。緊迫したスコアレスの状況が続く。

続くオーストリアのドライブで再び第 4 ダウン・ギャンブルをストップして攻撃権を奪った日本。第 2Q 残り 5 分 10 秒、敵陣 24 ヤードからの攻撃は、RB 鷺野のランで 5 ヤード進み、フィールドゴール圏内の 19 ヤード地点へ。しかしこの好機で、K 有輪 七海が 36 ヤードの FG を外し、日本は先制ならず。0 対 0 のスコアレスで後半へ突入する。

日本のキックオフでスタートした第 3Q。オーストリアは、RB Andreas Hofbauer のランや QB Alexander Thury のパスなどで着実に進むも、オフェンス・パス・インターフェアの反則で 15 ヤード罰退。さらにその直後のプレイで QB Alexander Thury が DL 藤谷 雄飛(関西大学 1 年)にサックされるなど思うように進めず。日本はここでもディフェンスが踏ん張り、カナダに得点を許さない。

そろそろ得点を奪いたい日本は、第 3Q 残り 8 分 2 秒、自陣 25 ヤードからのドライブは QB 岸村のランで着実に前進。さらに、代わった QB 西澤 凌介(日本大学 1 年)も、8 ヤードラン、WR 井ノロへの 8 ヤードパスと堅実にボールを進めて、敵陣 43 ヤードまで侵入するが、この攻撃も結局パントに終わり得点にこそ至らない。

しかし、続くオーストリアの攻撃をまたもスリーアンドアウトに抑え、攻撃権を奪った日本。第 4Q 残り 11 分 51 秒、敵陣 48 ヤードからの攻撃で日本がついに均衡を破る。第 1 ダウン 10 ヤードの場面、RB 鷺野が相手タックルを受けながらも倒れず 31 ヤードゲイン。一気に敵陣 17 ヤード地点へ進む。さらに RB 鷺野の 2 ヤードラン、QB 西澤の 5 ヤードラン、RB 高田ジェームス(早大学院高校 2 年)の 4 ヤードランでファーストダウンを獲得した。ただ、このランで RB 高田が右足を負傷。カートで運ばれ、日本ベンチには嫌な空気が流れた。しかし、RB 鷺野の連続ランで 5 ヤード前進。すると、第 4Q 残り 8 分 42 秒、第 3 ダウン 1 ヤードの場面、QB 西澤が中央へ飛び込み、先制のタッチダウン。K 有輪がキックも成功させて、7 対 0 とリードを奪う。

日本は、続くオーストリアの攻撃もスリーアンドアウトに抑えて、完全に流れを掌握したかのように見えたが、次の攻撃で RB 鷺野が痛恨のファンブル。相手にリカバーされて攻撃権を失ってしまい、嫌な空気が流れる。しかし、ここでもディフェンスが奮闘。オーストリアにファーストダウンを許さない。

第 4Q 残り 5 分 38 秒、日本は自陣 20 ヤードから攻撃をスタート。いきなり、RB 松田 拓(関西大学 1 年)の 14 ヤードでファーストダウン獲得。日本はランで時計を進め、逃げ切り体制に入る。だが、残り 1 分 9 秒で相手に攻撃権を渡してしまう。微妙な時間を残してしまったが、ここでも守備陣が大活躍。敵陣 24 ヤードから始まった相手攻撃をファーストダウン更新させたのは 1 度のみ。最後は、敵陣 48 ヤード、第 4 ダウン 1 ヤードからの相手のギャンブルをディフェンス陣がシャットアウト。日本は次の攻撃でニーダウンして試合終了。2 大会連続で銅メダルを獲得した。

■ 3-4位決定戦 日本対オーストリア戦 主なスタッツ

得点経過		
4Q		
日本	TD	08:42 QB 西澤 凌介 1 ヤード TD ラン(キック成功)

日本	チーム成績	オーストリア
183	オフェンス総獲得ヤード数	90
39	パス総獲得ヤード数	53
144	ラン総獲得ヤード数	37
11	ファーストダウン回数	7
2/20	ペナルティ回数／喪失ヤード数	4/40
27:09	ボール支配時間	20:51

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベプト	被サック
QB 岸村 恭吾	4/10	21	0	1	1
QB 西澤 凌介	1/1	7	0	0	1
RB 鶩野 聰	1/1	11	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
RB 鶩野 聰	15	75	0	5.0	31
QB 岸村 恭吾	11	28	0	2.5	16
QB 西澤 凌介	7	21	1	3.0	12
RB 松田 拓	3	17	0	5.7	14
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 井ノ口 清剛	2	18	0	9.0	11
WR 西村 有斗	2	8	0	4.0	7
RB 鶩野 聰	1	13	0	13.0	13
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターベプト	
LB 林 直輝	5.0	0	1.5/3 ヤード	0	
DL 小林 貴	4.5	1.0/3 ヤード	1.0/3 ヤード	0	
DL 宮田 直人	3.5	0	1.0/5 ヤード	0	
LB コグラン ケビン	3.0	0	0	0	
DL 藤谷 雄飛	3.0	1.0/7 ヤード	1.5/8 ヤード	0	

■ 3-4 位決定戦 日本対オーストリア戦 試合後の U-19 日本代表 監督、選手 コメント

U-19 日本代表 山㟢 隆夫 監督（大阪産業大学附属高等学校監督）

「しんどいゲームだった。予想はしていたが、ここまでしんどいゲームになるとは思っていなかった。0 対 0 で前半を折り返した時は、正直少し不満だったが、0 対 0 だからこそ落ち着いて、いたん気持ちを整理して後半に臨んだ。苦しみながらも勝ち取った 3 位という結果については、目標はアメリカと戦うことだったが、なんとか 3 位になれたことは良かったし、メダルだけは獲って帰らなければと思っていたのでその点では良かったと思う。」

U-19 の世界選手権に参加した選手達が経験した、このスポーツを通じて、世界のいろんな選手達と試合をしたり、あるいは宿舎等で交流したりしたという経験は、今後のフットボールのみならず、人生にも大きな影響を与える経験になると思う。前回大会の U-19 で活躍した選手たちは今の日本のフットボール界をリードする存在になっているし、今回の代表選手も先輩たちに追いつく、あるいは追い越すという気持ちで、日本に戻ってフットボールをしてほしい。またそれのみならず、将来的にはシニアの代表になって、ぜひともカナダにリベンジしてほしい。」

U-19 日本代表 主将 RB 鷲野 聰（関西学院大学 2 年）

「オフェンスは出来が悪くて、7 点しか取れていないのはとても情けない。応援してくださった方に申し訳ない。でも、このような接戦を勝てたということは、すごい自信になる。とりあえず、3 位になれてホッとしている。」

自分のパフォーマンスについては、外国人相手にロングゲインを取れたことは自信になる。ただ、良いプレイもあったが、第 4Q の自身のファンブルで帳消しになった。ミスをしてしまい、チームメイトにも申し訳なかった。」

今大会を振り返って、主将という立場で、自分の精神面が鍛えられ、考えさせられた。チームをまとめ上げるのは、今大会の代表の 45 人という少人数でも難しい。この経験は日本の自分のチームに持ち帰っても活かせることだと思うので、ぜひ活かしていきたい。」

U-19 日本代表 LB 林 直輝（関西大学 2 年）

「第 4Q までオフェンスが得点なしというディフェンスにプレッシャーのかかる展開だったが、逆にオフェンスが苦しい時はディフェンスが頑張って、すぐオフェンスに返してやろうという気持ちで、ディフェンスのハドルの中も盛り上がっていた。実際にディフェンスは序盤からオーストリアのオフェンスを止めることができ、全員でやれば止めていけるという自信を持って最後までやれた。」

今大会を経験して、ここまで色々な国の選手と試合が出来る機会はめったにないので、同じ年の世界の選手がどんなにすごかったかということを日本に帰ってチームメイトたちに伝えたい。そしてこの経験を活かして、関学や立命館などのライバル校との試合の時に、いいパフォーマンスが出来るようにしていきたい。」

■ 決勝戦 アメリカ対カナダ戦 試合結果

現地時間 7 月 7 日(土)20 時 00 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 アメリカ代表	開催国	0	7	7	3	---	17
U-19 カナダ代表	アメリカ大陸第 1	3	7	6	7	---	23



オーストリア戦
守備陣



#28
鶴野聰選手
RB



第2回 IFAF U-19 世界選手権大会 2012 日本代表ロースター45名



■ ポジション順

◎…主将 ○…副将

No.	Pos.	選手名	LAST	FIRST	生年月日	身長	体重	所属校	学年	出身校
3	DB	永野 翔也	Nagano	Shoya	02/22/93	171	75	日本体育大学	2	松本第一高校
11	DB	下水流 裕太	Shimozuru	Yuta	03/09/94	166	66	日本大学	1	大産大附属高校
17	DB	宮川 周平	Miyagawa	Shuhei	03/03/94	180	78	法政大学	1	法政第二高校
20	DB	寺中 健悟	Teranaka	Kengo	09/17/93	168	70	早稲田大学	1	早大学院高校
○24	DB	三津谷 郁磨	Mitsuya	Ikuma	01/27/93	173	73	慶應義塾大学	2	慶應義塾高校
25	DB	秋山 雅洋	Akiyama	Masahiro	02/23/93	172	74	立命館大学	2	三島高校
36	DB	平田 淳土朗	Hirata	Yushiro	03/27/93	174	77	中央大学	2	中央大附属高校
23	DL	渡邊 健太郎	Watanabe	Kentaro	04/28/93	180	110	明治大学	1	法政第二高校
41	DL	仲里 広章	Nakazato	Hiroaki	07/16/93	174	126	立命館大学	1	明学東村山高校
45	DL	宮田 直人	Miyata	Naoto	01/09/93	177	102	日本大学	2	横浜高校
90	DL	藤谷 雄飛	Fujitani	Yuhi	02/24/94	180	92	関西大学	1	大産大附属高校
92	DL	橋本 亮	Hashimoto	Ryo	08/13/93	178	126	関西学院大学	1	豊中高校
96	DL	西脇 悅志	Nishiwaki	Atsushi	02/01/93	180	95	日本大学	2	北大津高校
○99	DL	小林 貴	Kobayashi	Takashi	01/07/93	182	115	法政大学	2	法政第二高校
78	DL/OL	佐嶋 優輔	Sajima	Yusuke	08/24/94	190	110	関大第一高校	3	---
2	K/P	有輪 七海	Ariwa	Nanami	01/28/94	176	75	日本大学	1	立教新座高校
13	LB	林 直輝	Hayashi	Naoki	01/19/93	178	79	関西大学	2	関西大学第一高校
44	LB	峯 佑輔	Mine	Yusuke	02/09/93	173	84	早稲田大学	2	早大学院高校
50	LB	上山 洋平	Ueyama	Yohei	02/05/93	170	99	立命館大学	2	立命館宇治高校
52	LB	坂口 裕一朗	Sakaguchi	Yuichiro	03/25/93	175	83	立教大学	2	立教新座高校
54	LB	山崎 将志	Yamazaki	Masashi	03/09/93	174	91	中央大学	2	日大第三高校
58	LB	柳 龍太郎	Yanagi	Ryutaro	02/08/93	174	90	明治大学	2	日大第三高校
42	LB/P	コグラン ケビン	Coghlan	Kevin	06/07/93	182	83	早稲田大学	1	早大学院高校
53	OL	白波瀬 慧	Shirahase	Satoshi	02/04/94	177	104	立命館大学	1	立命館宇治高校
55	OL	遠藤 廉人	Endo	Yoshito	01/28/94	178	105	立命館大学	1	大産大附属高校
72	OL	上石 一輝	Kamiishi	Kazuki	04/11/93	184	109	早稲田大学	1	早大学院高校
75	OL	島野 堅三	Shimano	Kenzo	11/10/93	186	118	立命館大学	1	大産大附属高校
76	OL	水上 健汰	Mizukami	Kenta	03/04/94	176	116	立命館大学	1	立命館宇治高校
77	OL	庄島 辰堯	Shojima	Tatsuaki	08/18/93	188	125	Santa Monica College	1	都立西高校
7	QB	佐伯 龍之介	Saeki	Ryunosuke	01/12/93	175	77	日本大学	2	日大鶴ヶ丘高校
14	QB	岸村 恭吾	Kishimura	Kyogo	01/25/94	178	74	関西大学	1	大産大附属高校
16	QB	西澤 凌介	Nishizawa	Ryosuke	12/13/93	174	82	日本大学	1	千葉日大第一高校
19	QB	石内 卓也	Ishiochi	Takuya	08/06/93	180	75	関西大学	1	関西大学第一高校
1	RB/WR	高田 ジェームス	Takada(Gray)	James	06/12/95	174	70	早大学院高校	2	---
5	RB	松田 拓	Matsuda	Taku	09/25/93	174	74	関西大学	1	大産大附属高校
○28	RB	鷺野 聰	Sagino	Satoshi	01/17/93	170	66	関西学院大学	2	関西学院高等部
10	TE	永野 力丸	Nagano	Rikimaru	02/16/93	186	100	立命館大学	2	桃山学院高校
87	TE	村橋 洋祐	Murahashi	Yosuke	09/28/93	186	93	早稲田大学	1	豊中高校
37	TE/FB/P	赤津 裕之	Akatsu	Hiroyuki	02/15/93	173	110	明治大学	2	日大第三高校
4	WR	西村 有斗	Nishimura	Aruto	03/08/94	170	67	日本大学	1	大産大附属高校
21	WR	高尾 祐樹	Takao	Hiroki	01/09/94	172	68	桃山学院大学	1	大産大附属高校
22	WR	田中 雄大	Tanaka	Yudai	02/18/94	176	70	関西学院大学	1	関西学院高等部
26	WR	井ノ口 清剛	Inoguchi	Seigo	05/05/93	180	73	日本大学	1	大産大附属高校
83	WR	恒吉 幸紀	Tsuneyoshi	Koki	08/04/93	176	74	法政大学	1	佼成学園高校
84	WR	木下 豪大	Kinoshita	Gota	03/12/94	182	82	関西学院大学	1	関西学院高等部



第2回 IFAF U-19 世界選手権大会 2012 日本代表コーチ＆スタッフ



■ コーチ

役職	氏名	LAST	FIRST	所属
監督	山㟢 隆夫	Yamazaki	Takao	大阪産業大附属高等学校
ヘッドコーチ	古橋 由一郎	Furuhashi	Yuichiro	元立命館大学
オフェンス・コーディネーター	板井 征人	Itai	Masato	関西大学
ディフェンス・コーディネーター	武田 真一	Takeda	Shinichi	大阪産業大附属高等学校
コーチ(FB/TE)	柳 秀雄	Yanagi	Hideo	富士通フロンティアーズ
コーチ(RB/K)	岸野 公彦	Kishino	Kimihiko	アサヒ飲料チャレンジャーズ
コーチ(OL)	田中 芳行	Tanaka	Yoshiyuki	日本大学
コーチ(LB)	有澤 玄	Arisawa	Gen	鹿島ディアーズ
アシスタントコーチ	力野 邦人	Rikino	Kunihiro	ハリケーンズ
アシスタントコーチ	西村 忍	Nishimura	Shinobu	東洋大学
アシスタントコーチ	中須賀 陽介	Nakasuga	Yosuke	東海大学
アシスタントコーチ	藤巻 辰崇	Fujimaki	Tatsutaka	日本大学

■ スタッフ

役職	氏名	LAST	FIRST	所属
団長	浅田 豊久	Asada	Toyohisa	日本アメリカンフットボール協会
副団長	金氏 真	Kaneiji	Makoto	日本アメリカンフットボール協会
GM	清水 裕司	Shimizu	Yuji	日本アメリカンフットボール協会
CDM	山田 晋三	Yamada	Shinzo	IBM ビッグブルー
チームドクター	星野 祐一	Hoshino	Yuichi	神戸海星病院 整形外科
ヘッドトレーナー	吉田 早織	Yoshida	Saori	浜松大学講師、元東海大 AT
アシスタントトレーナー	曾根 伸明	Sone	Nobuaki	東京農業大学
アシスタントトレーナー	小山 貴之	Koyama	Takayuki	日本大学
学生トレーナー	柴田 ちひろ	Shibata	Chihiro	東海大学
学生トレーナー	辻本 真吾	Tsujimoto	Shingo	関西学院大学
学生マネージャー	吉田 元気	Yoshida	Genki	立教大学
学生マネージャー	森 奈生美	Mori	Naomi	慶應義塾大学
学生マネージャー	比護 千裕	Higo	Chihiro	立教大学
学生スタッフ	山田 健人	Yamada	Kento	慶應義塾大学
広報	藤原 文典	Fujiwara	Yasunori	NFL ジャパン



第2回 U-19 世界選手権 2012 大会概要

大会名称	【日本語表記】第2回 IFAF U-19 アメリカンフットボール世界選手権テキサス大会 2012 【英語表記】 2 nd IFAF Under-19 World Championship of American Football, Texas 2012	
主催	国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF: International Federation of American Football)	
主管	USA Football	
日程	2012年6月28日(木)～7月7日(土) ※米国中部時間(CST):日本時間-15時間	
会場	バーガー・スタジアム(米国テキサス州オースティン市)	
出場国	8カ国 アメリカ (開催国) ※2009第1回大会:優勝 カナダ (アメリカ大陸/第1代表) ※2009第1回大会:準優勝 パナマ (アメリカ大陸/第2代表) オーストリア (ヨーロッパ大陸/第1代表) フランス (ヨーロッパ大陸/第2代表) ※2009第1回大会:7位 スウェーデン (ヨーロッパ大陸/第3代表) ※2009第1回大会:6位 アメリカンサモア (オセアニア) <u>日本</u> (アジア) ※2009第1回大会:3位	
選手資格	日本国籍を有していること 2012年12月31日現在で16～19歳であること ※1993年1月1日～1996年12月31日生まれ	
チーム編成	各国45名の選手でチームを編成	
試合形式	NCAAルール、12分/Q 計時	
大会形式	トーナメント形式	

大会日程

6月30日(土)

GAME1	9:00	パナマ	0-40	オーストリア
GAME2	11:30	日本	27-6	フランス
GAME3	17:00	カナダ	43-0	スウェーデン
GAME4	20:00	アメリカ	27-6	アメリカンサモア

7月3日(火)

GAME5	17:00	フランス	41-0	スウェーデン
GAME6	20:00	パナマ	0-51	アメリカンサモア

7月4日(水)

準決勝A	17:00	カナダ	33-24	日本
準決勝B	20:00	アメリカ	70-7	オーストリア

7月6日(金)

7-8位決定戦	17:00	スウェーデン	54-20	パナマ
5-6位決定戦	20:00	フランス	14-27	アメリカンサモア

7月7日(土)

3-4位決定戦	17:00	日本	7-0	オーストリア
優勝決定戦	20:00	アメリカ	17-23	カナダ

最終順位

【優勝】	カナダ	(アメリカ大陸／第1代表)
【2位】	アメリカ	(前回大会王者／開催国)
【3位】	日本	(アジア)
【4位】	オーストリア	(ヨーロッパ大陸／第1代表)
【5位】	アメリカンサモア	(オセアニア)
【6位】	フランス	(ヨーロッパ大陸／第2代表)
【7位】	スウェーデン	(ヨーロッパ大陸／第3代表)
【8位】	パナマ	(アメリカ大陸／第2代表)

表彰

【大会ベスト11】	オフェンス部門	OL 島野 堅三	(立命館大学1年)
	ディフェンス部門	DB 下水流 裕太	(日本大学1年)



U-19 日本代表 チーム概要

主管 社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本学生アメリカンフットボール協会
日本高等学校アメリカンフットボール連盟
日本社会人アメリカンフットボール協会
NFL ジャパン

遠征日程 【渡米】6月28日(木)～【帰国】7月9日(月)

渡米便

アメリカン航空 170便	6月28日(木)	15:55	成田発
	同日	10:10	ロサンゼルス着
1308便	同日	13:40	ロサンゼルス発
	同日	18:45	オースティン着

帰国便

アメリカン航空 311便	7月8日(日)	7:35	オースティン発
	同日	8:40	ロサンゼルス着
169便	同日	12:25	ロサンゼルス発
	7月9日(月)	15:50	成田着

国内最終練習 6月27日(水) 13:00～14:30 ミーティング
14:30～17:00 練習 **※予定**

於: IBM グラウンド(千葉県八千代市八千代台北 11-2-1)※京成本線八千代台駅から徒歩 7 分

テレビ放映 スカイ A **※予定**

関連ウェブサイト 大会公式サイト(英語) <http://u19championship.com/>
U-19 日本代表オフィシャルサイト <http://americanfootball.jp/japan/u19/>
NFL 日本公式サイト内特設ページ www.nfljapan.com/u19wc2012/